

障害のある方の 上手な歯科受診の手引き



編集 千葉県歯科医師会

本冊子は、主に知的障害のある方が円滑に歯科を受診していただくことを目的としております。

本冊子は千葉県の平成19年度「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」に係る施策提案型事業「障害者の歯科受診バリアフリー化事業」のひとつとして作成いたしました。

障害のある方の上手な歯科受診の手引き

支援者の皆様へ

———歯科治療とよりよい出会い、お付き合い———

障害のある方の歯科治療は、一般の方の治療と同じです。

しかし、問題になる場合があります。

なぜなら歯科治療は皆さんもご存じのように、決して楽しい経験ではないからです。また、歯科の病気は放置しておくとう進行し、自然に治ることはありません。一度は完全に治療をする必要があります。

口は大切な脳に近いので痛みを感じやすく、治療に不安や恐怖心が起こりやすいのです。障害をお持ちの方の中には、歯科治療時のストレスに耐えられない方もいらっしゃいます。

たとえば脳性麻痺の方は、治療時に緊張や不随意運動が起きることがあります。歯科治療は口の中で高速回転の器具を使うことが多いので、体が動いてしまうとたいへん危険です。



———さて、どうしたらこの問題を解決できるのでしょうか？———

1. まず、**かかりつけの歯科医**を持ちましょう。

- 信頼関係を作り、スムーズな受診につながります
- かかりつけ医での治療がむずかしい場合は、専門の医療機関を紹介することもあります

2. つぎに、**定期的に健診**を受けましょう。

- 予防方法の指導が受けられます
- お口の中の悪いところが、早期に発見できます
- 治療後のアフターケアが受けられます

歯科医の上手なかかり方をお教えします。

さて、ここで問題です。いつ、歯科医にかかるのがよいのでしょうか？

- ① 痛くなってから
- ② 歯が欠けてから
- ③ 食べにくくなってから
- ④ 何でもない時

正解は④です。

口の中の異常や、特に歯は、病気がかなり進行しないと症状が出ませんから、自覚症状がないうちに通院健診を受けることが重要です。口の中の異常に気づくのが障害のある方では遅くなることを、支援者の皆様に知っていただきたいと思います。

その理由は

1. 本人の訴えが少ない
2. 病気が外から見てもわかりにくい

ことです。

———歯医者さんに電話をしましょう———



現在、多くの歯科医院が予約診療を行っています。

電話帳などで調べてから連絡しましょう。小児の場合は、診療科目に「小児歯科」がある診療所がいいでしょう。12歳くらいからは、それ以外の診療所でもかまわないでしょう。

———歯科医にも得手、不得手があります———

電話で障害の種類と、こだわりや行動の特徴、理解力などを分かる範囲で説明してください。具体的に説明していただけると、歯科医が受け入れ可能かどうかを判断しやすくなります。

例「もしもし、うちの子、障害児なのですが診ていただけますか？歯が痛いようです。自閉症で、パニックになることもあります。話はある程度理解できます」

「脳性麻痺なのですが診てもらえますか？緊張が強いだけで、知的障害はありません。18歳です。歩けませんので車椅子を使っています。駐車場はありますか？」

この場合でも、歯科医によってはお断りするかもしれません。支援者の皆様、怒ってはいけません。歯科治療は危険を伴うことなのです。その歯科医が自分の診療所の受け入れ体制では危険だと判断しているのです。他施設を紹介してもらおうか、別の診療所に電話しましょう。

—————初めての歯科医院—————

外出が少ない障害のある方では、歯科医院に行くのはただでさえ緊張することでしょう。車で行く場合は駐車場を確認しておきましょう。

車椅子を使用しているときには、どこまで車椅子が入れるか確認しましょう。診療所のスタッフに移動の介助を頼めるか、聞いてみましょう。

トイレは洋式か和式か確認しておきましょう。待合室で落ち着けない方ならばその旨伝えて、待たないで済むようお願いしましょう。または別室があればそこで待たせてもらいましょう。

—————診療室で—————

歯科治療は不快なものです。まして知的障害がある場合や、いつもと異なる環境に慣れない自閉症者は、落ち着いて治療を受けるほうが稀です。

前にも申し上げましたが、口の中は外からは良く見えません。そこで、開口器という器械で開けてみる場合があります。診察のとき体をくねらせていると、きちんと診ることができません。やむを得ず、レストレイナーというネットで体を抑えて診ることがあります。これも安全な健診や治療には必要な場合があります。本人は意外に、この抑制法にはストレスなく慣れるものです。

—————さて診察です—————

患者さんによっては、この段階で大泣き、大暴れする方もいらっしゃるでしょう。歯科医と協力してなるべく、すばやく口の中を診てもらいましょう。歯科医が「こことここが、むし歯です。歯肉が腫れています。増殖しています。化膿しています。」と教えてくれますから、よく見て確認しましょう。後で介助磨きの参考にもなりますし、治療手順も理解し易くなります。診察中に嘔吐する場合がありますので、通院4時間前から禁食させてください。



——診察と治療計画を聞いたら介助清掃法のコツをきいて診察室を出ます。——
その後、受付で治療費用の目安、治療間隔、おおよその通院回数を聞きます。

まとめ

1. 歯の治療は誰でも大嫌いです。
2. 知的障害のある方が、嫌がって泣いたり暴れたりするのは自然です。
3. 抑制は必要なときもあります。
4. 歯科も早くから、**かかりつけ医**を持つことをお勧めします。
5. 歯科通院時は**直前の食事は避ける**ことが大事です。
6. 季節により、着替え、オムツなどが必要なときがあります。

歯科疾患には、ほとんど自然治癒がありません。良い歯医者さんと出会えることをお祈りします。



千葉県歯科医師会 特殊歯科保健委員会

お電話で歯科受診を申し込む時に、伝えること

お分かりになる範囲で結構ですから、この表をご記入になってから歯科医院にご連絡いただくのがよろしいです。

必要ならば、「歯科医師と直接話したいので、都合のよい時間を教えて欲しい」とお伝えいただくのも良いでしょう。実際の受診に際しましても、必要事項をメモしてご持参いただくか、お持ちでしたら「[受診サポート手帳](#)」をご用意いただければとても役に立ちます。

お名前	
現在の症状 (痛い・腫れている・健診希望、など)	
年齢	
身長・体重	
学校名・施設名	
障害の種類 (ダウン症・自閉症・肢体不自由、など)	
今までに歯科・耳鼻科・眼科等を 受診した時の状況	
全身疾患 (心臓病・喘息・出血傾向、など)	
その他 (駐車場・車イス・介助の必要性 待合室での待機・特別な希望事項)	